

子供の頃からゲームショーがずっと好きなんです。台湾に住んでいたのに、一番お気に入りの番組は日本の「炎のチャレンジャーこれが出来たら100万円」にほかなりません。チャレンジャーは司会者の内チャンと南チャンに独創的にして刺激的な挑戦をされて賞金を獲得するため、死を恐れないように一所懸命頑張ります。挑戦はおおよそいくつかのシリーズにわけていたんです。

例えば、子供向けシリーズは名前どおり子供にとって難しいことを挑戦させられます。聞くと「残酷だ」と思うけれど、大人にとってお金を手に入れる絶好な機会だから、子供を参加させないわけではないでしょう。人気のある挑戦の一つは子供ショッピングで、子供が一時間内買い物リストの項目を全部買ったら成功だということです。参加者はまだ幼いし、商品の名前をはっきり言えないし、よく変なものを買ってしまいます。あるいは、参加者は気を散らされて、関係ない所に行って挑戦を無視してしまいます。同時に、親はテレビをみて「あ〜お金がなくなった」と言いながら、嘆きます。お化け屋敷チャレンジもありました。中に入ったら全然泣かないでタスクが次々に出きれば成功します。それが自分を苦しめるんじゃないんですか。

私はたくさん食べるのが得意だから、大食いシリーズの回転寿司に参加したいです。挑戦とは、20皿が次々に出てネタに目の前から逃げられる前に順番で食べてしまわなくてはなりません。ネタは普通のお寿司だけではなく、バナナや殻付き卵など食べ難い物も有ります。自分は一食でバーガーを十こ食べたこともあるし、その挑戦はそんなに難しいわけではないと思うけれど、賞金があまり取られなかった理由があるでしょう。

一番好きな挑戦はイライラ棒です。挑戦者は棒を迷路フレームの中に入れて障害物に触れずゴールまで到着すれば勝つことになります。よほどバランス、テクニック、スピードの三点を完璧に結合しないと勝てないんです。今、インターネットにはパソコン版イライラ棒があるが、全部2Dなので、不満足さを感じます。実は、私はそれをプロジェクトとして棒と頭部追跡を用いて実体のような版を進行中です。

残念にも、この番組はもう放送していません。もし機会があったら、絶対に参加したいんです。

熊のみと砂のお城

グオ・ジャチー

生まれた時から、ベニは自分なりの考え方がありました。他の熊のみが毎日目的がないでゆっくり過ごしているのに対して、ベニはいつも幸せの意味を探していました。人生はうかうかして生きるべきではないと思いました。

ある日、友達と遊んだ後で、また考えすぎて、家に帰っている途中で迷ってしまいました。偶然に、近くのビーチに着きました。ベニは息が止まるほどびっくりしました。そこは海の深いところと比べて、もっと優しくて明るいところだと思いました。見上げれば、すごく青くてきれい空が見えました。日差しが自ら反射してきらきらしていて、ベニを暖かくしました。その奇跡のような感じに沈んでいながら、周りを見ていました。

もう昼ご飯の時間だったから、ビーチには誰もいなくて、たった砂のお城が一つ立っていました。そんなきれいな環境に立っていたお城は、確かに魅力的でした。ベニはそのお城に一目で惚れてしまいました。見れば見るほど好きになりました。両親が迎えに来るまで、ずっと見ていました。「お城と一緒にいるとすれば幸せになるかな。。」その日、ベニはそう思いながら寝ました。

それで、毎日放課後、ベニはそのビーチに行って、その素晴らしいお城を遅くまで見ていました。最初は見るだけで満足だったけど、だんだんそのお城から離れられなくなりました。何と言ってもそのお城に近づきたがっていました。そのために、波が高くなる度に、力をいっぱい集めて一生懸命波と一緒に飛びました。ちょっとお城をもっと近く見えるだけでも嬉しかったです。友達はそのを見たら、昏倒するほど驚いて怒って言いました。「危なくないの、それ？死ぬかもよ！早く帰ってきて！」と叫びました。ベニはただ笑って飛び続けました。「幸せだと言うことは、自分が好きなものを追いかけるということだ。」と思いました。力がなくなって腹減ったとき、ついに友達と帰りました。両親は大変に怒っていたのに、ベニに話してもらえませんでした。ベニはもう誰にも聞かずに、自分の世界に住んでいました。

何日後、ベニはまたそのビーチに行きました。天気予報によると、その日の波は高くなってちょっと危ないかもしれないそうだから、いつもより興奮していました。思ったとおり、波はすごく高くて立派でした。ベニにとって、珍しい機会がある重要な一日なので、力を無駄にしないように、一番高い波を待っていました。「来た！一番高いやつ！」心がどきどきして、適当なときに、波と一緒に飛びました。その時、まるで空に飛んでいるようなベニの姿は何より美しかったです。

その波のおかげで、ベニはついに好きなお城のそばにいられました。その時、世界の何も要りませんでした。波と一緒に海に戻りませんでした。かわいそうなベニは息がだんだん苦しくなりました。

次の日、帰ってこなかったベニを探していたみんなはビーチでもう飛べないベニの死体を見ました。馬鹿でしたか。幸せでしたか。誰も答えられませんでした。

花火と言うレストラン

私はカルテックの近くで一番好きなレストランは花火です。花火の日本料理はとてもおいしいと思います。そして、花火はレーク道のシアズとトレーダージョーズの間にあるので、とても近いです。弱点は晩御飯はちょっと高いです。でも、たまに食べるのはとてもおいしくて有意義だと思います。ところで、昼ご飯はあまり高くないから、昼ご飯を食べたらいいです。ウェーターの皆さんもとても気安いです。だから、サービスもとてもよいです。

花火の持ち主は韓国人です。花火の中はちょっと薄暗いです。そして、鮭バーに小さいテレビがあります。花火は植物がたくさんあるけどとても清潔です。空気がいいと思います。そして、いつも健康にいい枝豆をサービスします。

私はいつも彼女と一緒に花火へ行きます。晩御飯を食べる時、私は鋤焼が好きです。その鋤焼の中には牛肉と葱と榎茸と卵とソースがあります。卵以外、全部とても熱くて、臭いがいいです。材料は全部新鮮だから、おいしいです。私の彼女はお鮭と刺身が好きです。だから、彼女はよく花火でコンビネーションを食べます。花火の卵（鮭）が新鮮だから、普通の鮭屋と比べて大きくておいしいです。彼女のコンビはうにと鰻とともあります。彼女によると、花火の魚は新鮮でおいしいから、大好きだろうです。

花火の昼ご飯もおいしいです。花火は色々な弁当があります。たとえば、牛肉と鶏肉と豚肉と鮭と刺身などの弁当もあります。そして、弁当は大きいです。私はそこで食べる、度におなか一杯になります。でも、昼ごはんは安いから花火はいいレストランです。

このレストランのすしの選定も多いです。もちろん一般的な鮭と鱈と飛び子の鮭もあります。そして、色々な新しい鮭も作りました。たとえば、ボスロールなどがあります。これも新鮮な魚を使って、新しくおいしい鮭をサーブします。このヒュージョンの鮭を一度食べました。ちょっと高いけどおいしいと思います。

花火はいいレストランだと思います。ポーションが大きいし、魚が新鮮だし、味がいいです。そして、サービスもいいから、このレストランはチャンスがあたり、行って食べてみてください。

日本人との会話

私は市川建作さんと会話をしました。市川さんは21歳で早稲田大学の政治経済学部の学生です。なかなか親しみやすい人で、色々な面白いことについて話しました。

市川さんは、初めて外国旅行をしているそうですが英語が意外と上手です。最近の景気後退が引き起こした経済状態を実際に見る目的でアメリカに来たそうです。私も一度だけ日本に行ったことがあるので、市川さんと互いの国の意見について色々しゃべりました。市川さんは東京大学に入りたかったけど入学試験に落ちたそうです。それで一年間浪人として一日に十時間くらい翌年の入学試験のために勉強したそうです。私は、カルテックの学生の立場から見ても、一日に十時間も勉強するなんて想像できないと言いました。日本の大学はアメリカのと比べたら、入学するのがなかなか難しい。入学試験はSATと違って微積分学や色々な科学も含まれているそうです。SAT, ACTの方が割りと簡単らしいです。

明るい面を見れば、日本の大学に入ったらあまりすることがないそうです。でも市川さんはいまTOEFL（第二言語としての英語のテスト）のために勉強しています。TOEFLは、並みの英語のネイティブ・スピーカーにも難しいところのあるテストだそうです。市川さんは色々大変だなーと思いました。

趣味や好きな音楽や好きな映画についても話しました。市川さんはギターを弾いて、アンサンブルクラブでベースを弾くそうです。好きな音楽はイギリスのロックやポップです（ビートルズなど）。最近、アカデミー賞を受賞した映画を見て気に入ったそうです。ごく最近、「シンドラーのリスト」や「羊たちの沈黙」を見たと言いました。私が見ているスーパーヒーローの映画と比べたら、結構趣味がいいと思います。

カルテックのハウスシステム

パオリニ ロバート

カルテックは他の大学とちょっと違う寮があります。殆どの大学の寮は、勉強する場所と寝る場所。近くに住んでいる人とちょっと話すかも知れないけど、それぐらいだ。カルテックの寮、「ハウス」、は学生の寮だけではなく、家なのだ。一年生の時にどのハウスに入るかが決まり、その後は同じ人とずっと住むことになる。もちろん、違うハウスに移ることも可能。このシステムが好きな人もいるし、嫌いな人もいる。僕は今三年生で、二年ちょっと Lloyd ハウスに住んで、「ハウス」システムはとてもいいことだと思います。

それぞれのハウスには違いがありますが、大まかには同じなので、僕の住んでいる Lloyd ハウスについて説明します。Lloyd ハウスは寮長、書記官、活動部長、会計、スポーツ係長、そして三人の代議員が入っている政府があります。毎週会議があり、ハウスの活動や問題について論議します。ハウス員が時々何かの問題があれば、その人が会議に出席し、発表できます。ハウスは100名ぐらいしかいないので、役員はハウス員に強いかわりがあります。ハウスの一番面白い行事は平日にある晩御飯です。ハウスで食事をするのはとてもにぎやかで楽しいです。宿題や他の問題を頭の後ろに置いて、ただ友達と食べて話すのはとてもいいことだと思います。食べ終わると寮長が立って、告知がある人を指摘します。その後は数人で何か面白いゲームをして、解散する。それ以外の活動ももちろんあります。スキー旅行、ピクニック、クリスマス会、学内スポーツ競技、海への旅行、中間試験映画会、そして毎年カルテック生徒のためにパーティを企画したりします。当然いつもハウスのみで活動するのは悪いことですが、つまらない時や寂しい時にいつも戻ってこれる「家」があるのはいいことです。

僕は Lloyd ハウスのおかげでカルテックでの生活をもっと楽しんでます。殆どの友達はハウスの中なので、ハウスの行事に参加するのは面白いです。寂しい時は、ハウスを回って人と話すと気分が良くなります。学内スポーツに色々参加し、一年生の時にはスポーツ係長を手伝うチーム員、二年生の時にはスポーツ係長、そして今年は Lloyd ハウスの寮長になってみたいと思っています。寮長になれば、ハウス員が僕と同じように Lloyd ハウスを楽しめるようにしたいと思います。